

4 調査結果の概要

(1) 現在の健康状態 (Q1) (報告書7頁)

現在の健康状態については、「良い」24.8%、「まあ良い」22.6%を合わせた『良い』は47.4%と半数近くを占める。

一方、「あまり良くない」20.4%、「良くない」6.1%を合わせた『良くない』は26.6%と4人に1人。

性別では『良い』(男性49.9%、女性45.6%)は男性の割合が高い。

図1-1 現在の健康状態 (Q1)
(単位: %)

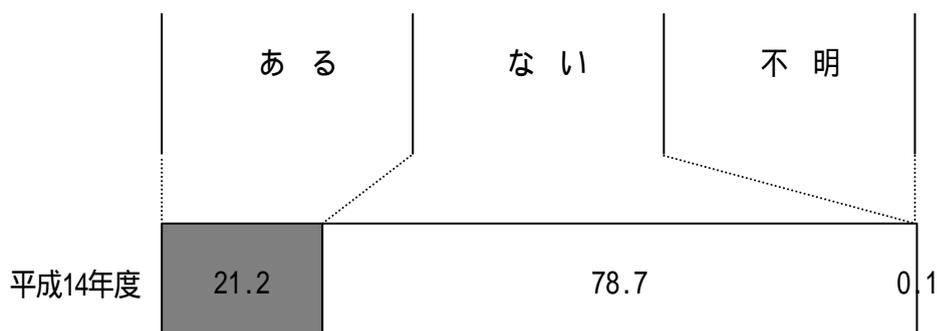


(2) 日常生活への影響 (Q2) (報告書9頁)

健康上の問題で日常生活に影響があるかは、「ある」が21.2%、「ない」が78.7%。

性別では「ある」(男性18.5%、女性23.2%)は女性の割合が高い。

図1-2 日常生活への影響 (Q2)
(単位: %)



(3) 日常活動の状況(Q3)(報告書11頁)

日常よく行われる活動については、「少し重い物を持ち上げたり、運んだりする(例えば買い物袋など)」を「とても難しい」13.2%、「すこし難しい」21.7%を合わせた『難しい』が34.9%と最も難しく、一方、「自分でお風呂に入ったり、着がえたりする」は「とても難しい」3.2%、「すこし難しい」5.4%を合わせた『難しい』が8.7%と1割を下回る。

性別では、『難しい』は女性の割合が高い。

表1-1 日常生活の状況(Q3)

	総数	(2)少し重い物を持ち上げたり、運んだりする(例えば買い物袋など)				(3)階段を1階上までのぼる(1つ上の階このぼる)				不明
		難しい(計)	とても難しい	すこし難しい	ぜんぜん難しくくない	難しい(計)	とても難しい	すこし難しい	ぜんぜん難しくくない	
【総数】(実数) (構成比)	2,307	805 34.9%	305 13.2%	500 21.7%	1,503 65.1%	620 26.9%	213 9.2%	407 17.7%	1,687 73.1%	1 0.0%
【性別】										
男性	965	25.7	8.6	17.1	74.3	19.3	6.5	12.8	80.6	0.1
女性	1,342	41.5	16.5	25.0	58.5	32.3	11.2	21.1	67.7	-

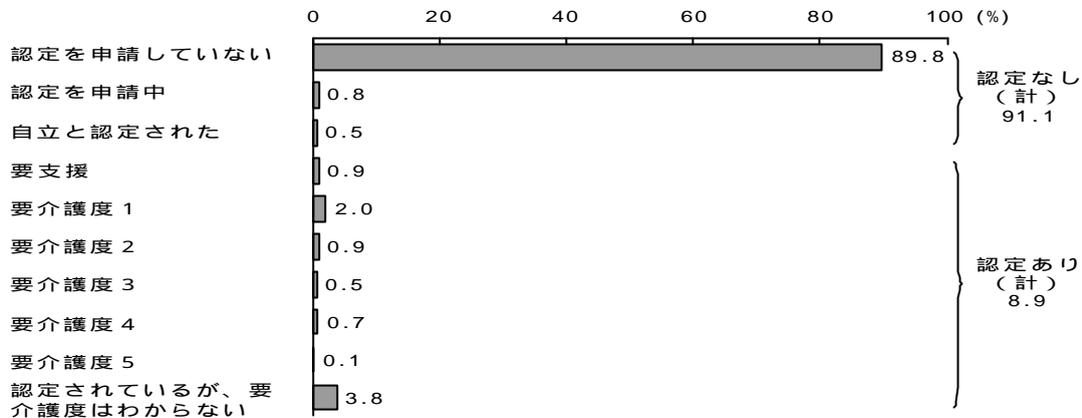
	総数	(4)体を前に曲げる、ひざまづく、かがむ				(1)適度な運動 例えば 家や庭のそうじをする、1~2時間散歩するなど			
		難しい(計)	とても難しい	すこし難しい	ぜんぜん難しくくない	難しい(計)	とても難しい	すこし難しい	ぜんぜん難しくくない
【総数】(実数) (構成比)	2,307	595 25.8%	182 7.9%	413 17.9%	1,712 74.2%	514 22.3%	170 7.4%	344 14.9%	1,793 77.7%
【性別】									
男性	965	17.5	5.7	11.7	82.5	16.9	6.3	10.6	83.1
女性	1,342	31.8	9.4	22.3	68.2	26.1	8.1	18.0	73.9

	総数	(5)数百メートルくらい歩く				(6)自分でお風呂に入ったり、着がえたりする			
		難しい(計)	とても難しい	すこし難しい	ぜんぜん難しくくない	難しい(計)	とても難しい	すこし難しい	ぜんぜん難しくくない
【総数】(実数) (構成比)	2,307	460 19.9%	157 6.8%	303 13.1%	1,848 80.1%	201 8.7%	75 3.2%	126 5.4%	2,107 91.3%
【性別】									
男性	965	13.5	5.1	8.4	86.5	6.9	3.2	3.7	93.1
女性	1,342	24.5	8.0	16.5	75.5	10.0	3.2	6.7	90.0

(4) 要介護度の状況 (Q6) (報告書 22 頁)

要介護の認定状況では、「認定を申請していない」が89.8%とほぼ9割、「認定を申請中」0.8%と「自立と認定された」0.5%とを合わせた『認定なし』が91.1%。

図1-3 要介護度の状況 (Q6)



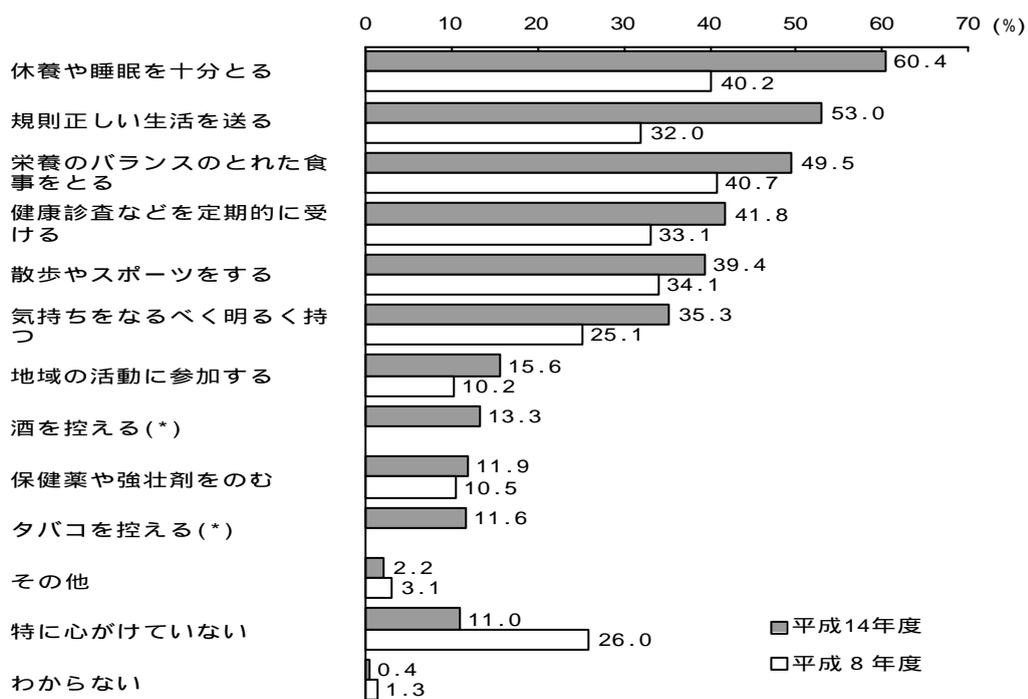
(5) 健康の維持増進のために心がけていること (Q7) (報告書 24 頁)

健康の維持増進のために心がけていることでは、「休養や睡眠を十分とる」が60.4%。

前回比較では、「特に心がけていない」が15.0ポイント減少し、具体的にあげられた各項目が増加。特に、「規則正しい生活を送る」は21.0ポイント増加して、前回5番目の割合から2番目の割合に。

世帯構成別では、「地域の活動に参加する」、「保健薬や強壮剤をのむ」を除き、具体的に健康の維持増進のために心がけているとする項目で、夫婦のみの世帯の割合が高い。

図1-4 健康の維持増進のために心がけていること (Q7) (複数回答)



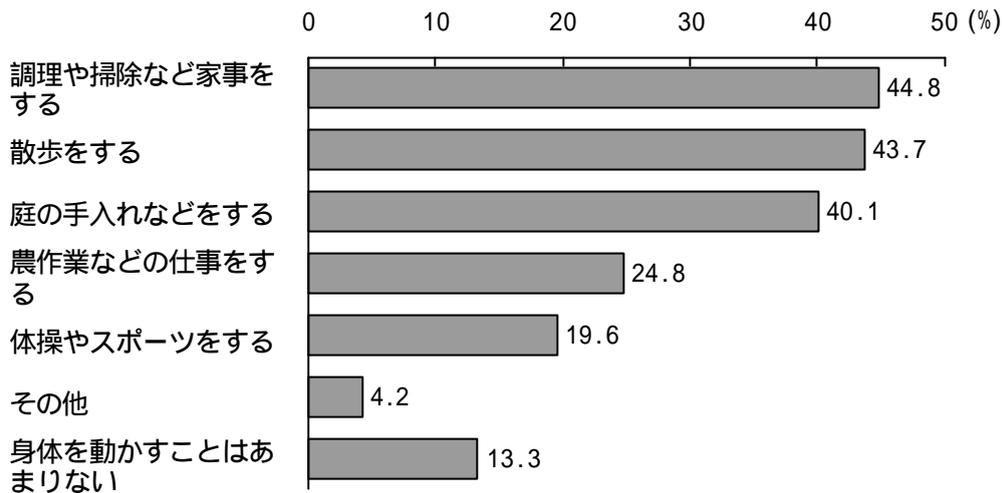
(*) 平成8年度調査では、「酒やタバコをひかえる」と尋ねており、12.4%の割合となっている。

(6) 身体を動かすことの有無 (Q 8) (報告書 27 頁)

日頃から身体を動かしているかでは、「調理や掃除など家事をする」が 44.8%と最も割合が高く、次いで、「散歩をする」43.7%、「庭の手入れなどをする」40.1%の順。一方、「身体を動かすことはあまりない」は 13.3%。

性別では、「調理や掃除など家事をする」(男性 16.9%、女性 64.9%) は女性の割合が 48.0ポイント、「農作業などの仕事をする」(男性 29.8%、女性 21.2%) は男性の割合が 8.6ポイント高い。「身体を動かすことはあまりない」(男性 15.6%、女性 11.7%) は男性が高い。

図 1 - 5 身体を動かすことの有無 (Q 8) (複数回答)



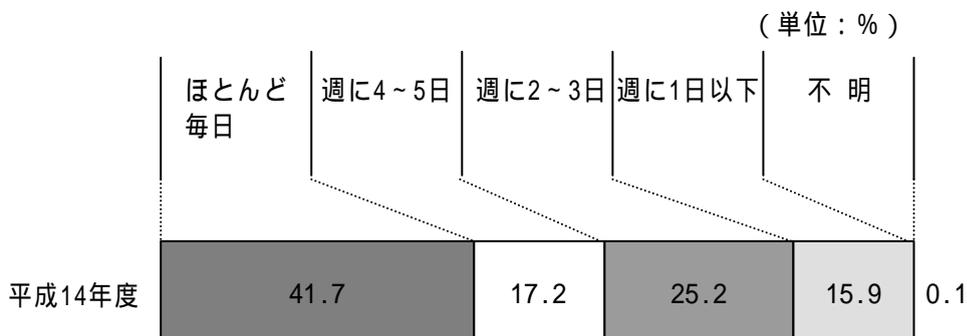
(7) 外出の頻度 (Q 9) (報告書 29 頁)

週に何日くらい出かけるかでは、「ほとんど毎日」が 41.7%、「週に 1 日以下」が 15.9%。

性別では、「ほとんど毎日」(男性 46.7%、女性 38.1%) は男性が、「週に 1 日以下」(男性 12.6%、女性 18.3%) は女性の割合が高い。

都市規模別では、「ほとんど毎日」は大都市 (48.2%) で割合が高い。「週に 1 日以下」は大都市 (7.1%) で割合が低く、町村 (21.6%) と小都市 (20.0%) では 2 割を超える。

図 1 - 6 外出の頻度 (Q 9)

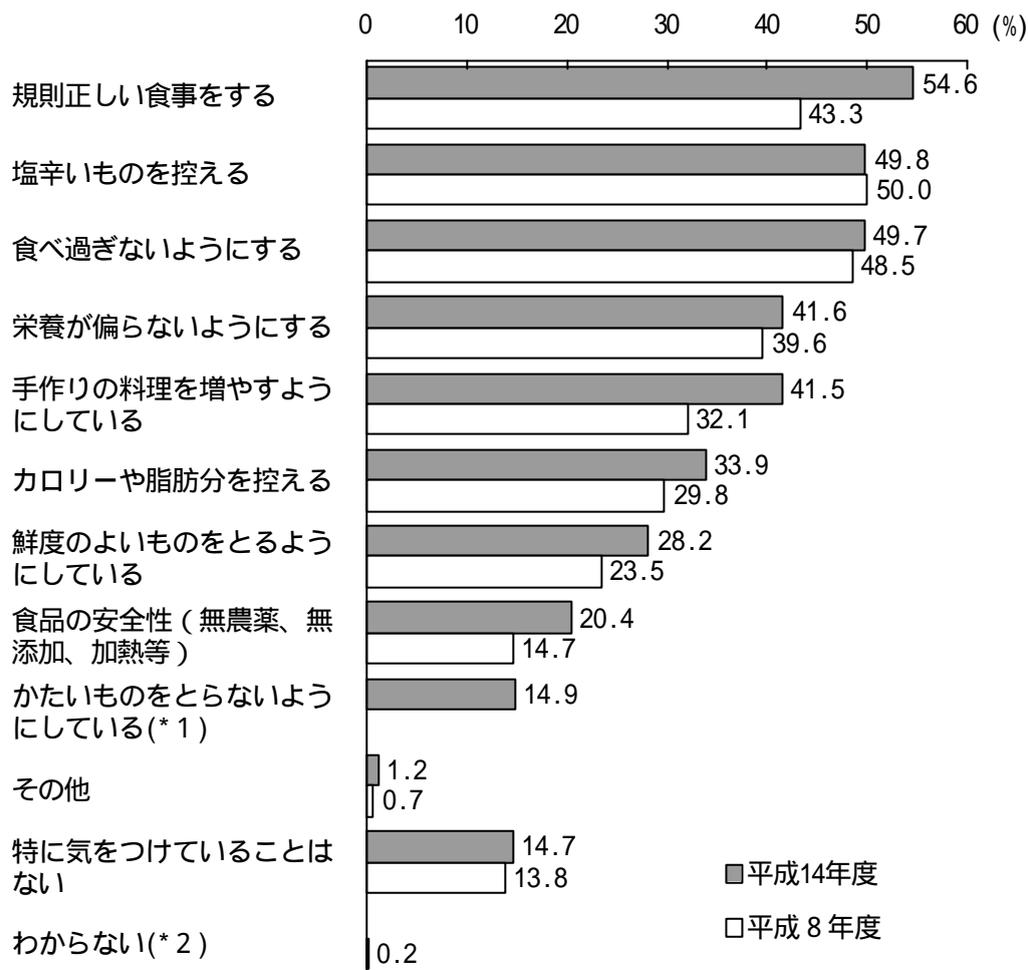


(8) 食事に関して気をつけていること (Q11)(報告書 33 頁)

食事に関してどのようなことに気をつけているかでは、「規則正しい食事をする」が 54.6%。前回調査と比較すると、「塩辛いものを控える」以外の全ての項目で割合が増加。増加割合が 11.3 ポイントと最も高い「規則正しい食事をする」は、前回 3 番目の割合から 1 番高い割合。

都市規模別では、「規則正しい食事をする」、「栄養が偏らないようにする」、「カロリーや脂肪分を控える」は大都市で、「塩辛いものを控える」は町村で割合が高い。また、「特に気をつけていることはない」は、都市規模が大きいほど割合が低い(大都市 8.1%、町村 18.5%)。

図 2 - 1 食事に関して気をつけていること (Q11)(複数回答)



(*1) 「かたいものをとらないようにしている」は今回加えた項目である。

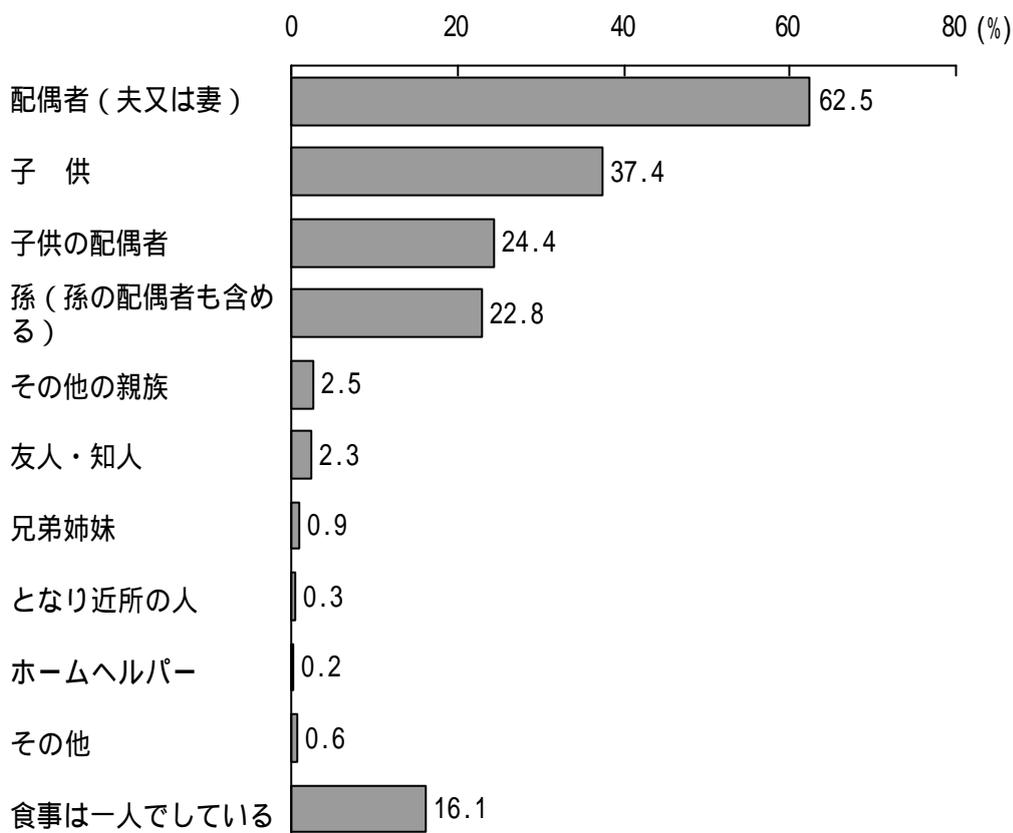
(*2) 「わからない」は今回削除した項目である。

(9) 食事を一緒にする人 (Q13)(報告書 37 頁)

普段だれと一緒に食事をするかでは、「配偶者(夫又は妻)」が62.5%。以下、「子供」37.4%、「子供の配偶者」24.4%、「孫(孫の配偶者も含める)」22.8%、「その他の親族」2.5%、「友人・知人」2.3%、「兄弟姉妹」0.9%、「となり近所の人」0.3%、「ホームヘルパー」0.2%の順。一方、「食事は一人でしている」は16.1%となっている。

配偶者の有無別では、配偶者のいる人の96.2%が「配偶者(夫又は妻)」、配偶者のいない人の42.0%が「食事は一人でしている」。配偶者のいない人は「子供」の割合が49.8%と高く、「子供の配偶者」、「孫(孫の配偶者も含める)」の割合も高い。

図 2 - 2 食事を一緒にする人 (Q13)(複数回答)

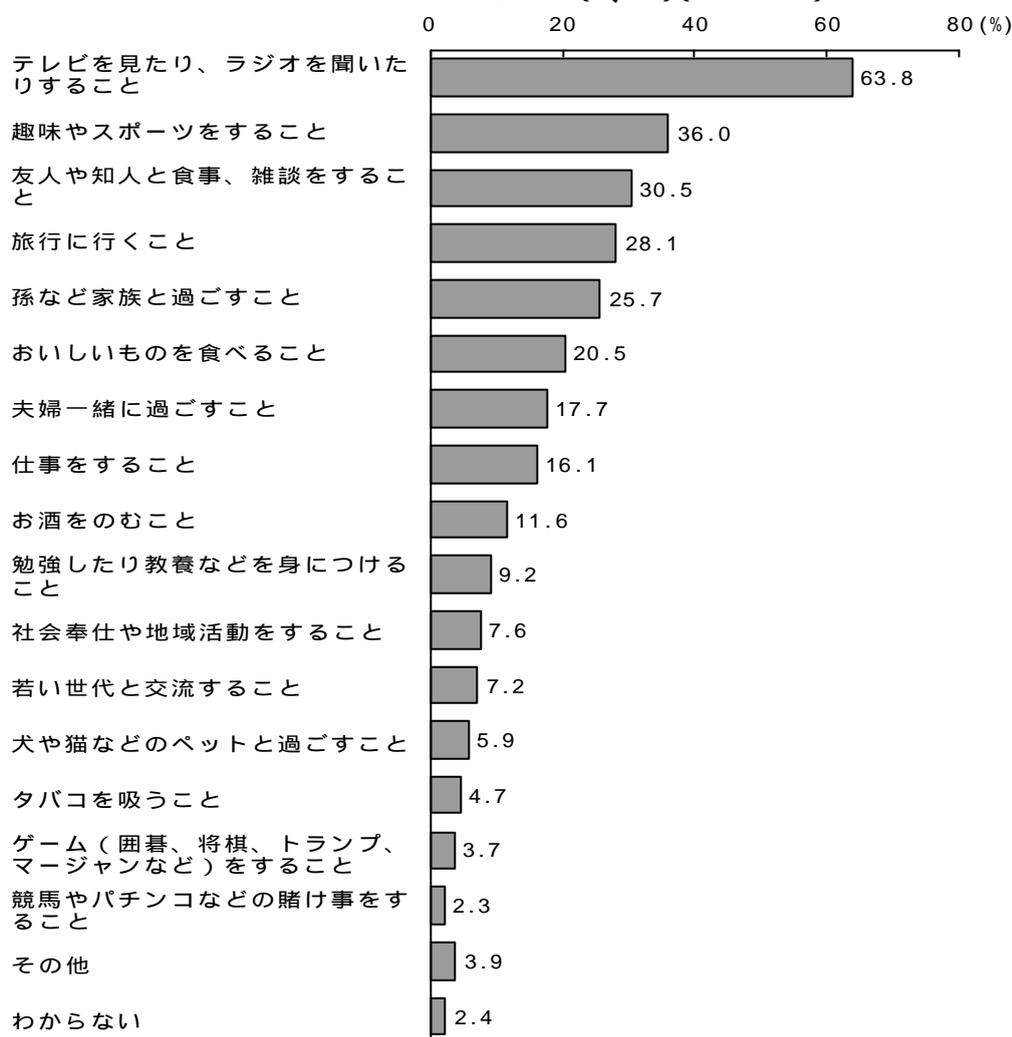


(10) 現在の楽しみ (Q15) (報告書 41 頁)

普段の生活の中での楽しみでは、「テレビを見たり、ラジオを聞いたりすること」が 63.8%。以下、「趣味やスポーツをすること」36.0%、「友人や知人と食事、雑談をすること」30.5%、「旅行に行くこと」28.1%、「孫など家族と過ごすこと」25.7%、「おいしいものを食べること」20.5%、「夫婦一緒に過ごすこと」17.7%、「仕事をする事」16.1%、「お酒をのむこと」11.6%の順。

性別では、「夫婦一緒に過ごすこと」(男性 24.0%、女性 13.2%)、「仕事をする事」(男性 21.5%、女性 12.2%)、「お酒をのむこと」(男性 24.1%、女性 2.6%) は男性の、「友人や知人と食事、雑談をすること」(男性 21.4%、女性 37.1%)、「孫など家族と過ごすこと」(男性 21.9%、女性 28.5%)、「おいしいものを食べること」(男性 16.8%、女性 23.1%) は女性の割合が高い

図 3 - 1 現在の楽しみ (Q15) (複数回答)



(参考)

平成 11 年に実施した「高齢者の日常生活に関する意識調査」と比較すると、「テレビを見たり、ラジオを聞いたりすること」(平成 11 年 80.2%)が 16.4 ポイント減少し、「仕事をする事」(平成 11 年 7.5%)が 8.6 ポイント、「勉強したり教養などを身につけること」(平成 11 年 4.2%)が 5.0 ポイント増加している。

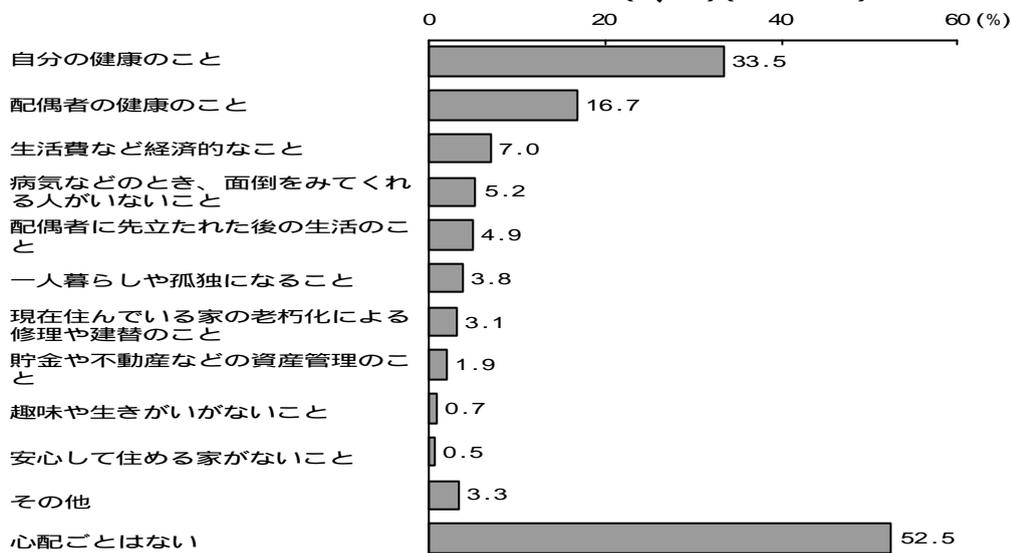
(11) 心配ごとや悩みごと (Q16) (報告書 44 頁)

現在の心配ごとや悩みごとでは、「心配ごとはない」は 52.5%と 5 割を超える。心配ごとや悩みごとでは、「自分の健康のこと」が 33.5%、「配偶者の健康のこと」16.7%。

世帯構成別では、単身世帯では「自分の健康のこと」(41.6%)、「病気などのとき、面倒をみてくれる人がいないこと」(18.2%)、「一人暮らしや孤独になること」(11.1%)の割合が、夫婦のみ世帯では「配偶者の健康のこと」(28.9%)、「配偶者に先立たれた後の生活のこと」(8.7%)の割合が高い。一方、「心配ごとはない」は単身世帯(46.7%)で割合が低く、三世帯世帯(58.1%)で割合が高い。

現在の健康状態別では、健康状態が『良くない』と答えた人で「心配ごとはない」の割合が 24.4%と低く、「自分の健康のこと」(67.0%)と「配偶者の健康のこと」(23.9%)の割合が、健康状態が『良い』、「普通」と答えた人よりも高い。一方、健康状態が『良い』と答えた人では「心配ごとはない」が 66.9%。

図 3 - 2 心配ごとや悩みごと (Q16) (複数回答)

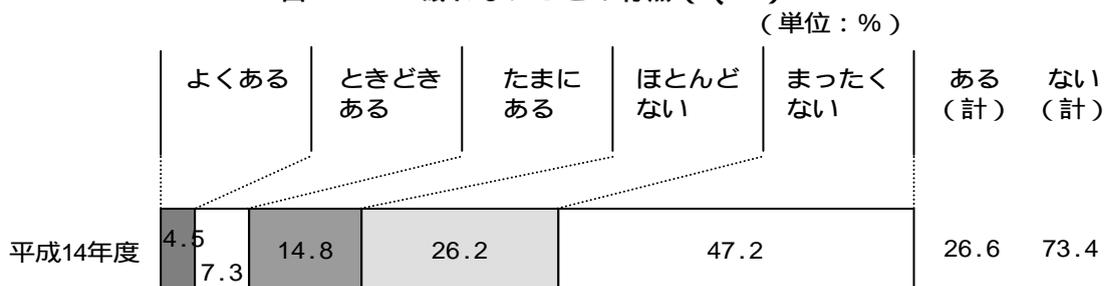


(12) 眠れないことの有無 (Q17) (報告書 47 頁)

夜中などに心配ごとや悩みごとで眠れないことがあるかでは、「よくある」が 4.5%、「ときどきある」が 7.3%、「たまにある」が 14.8%で、これらを合わせた『ある』が 26.6%。一方、「まったくない」47.2%と「ほとんどない」26.2%を合わせた『ない』が 73.4%。

世帯構成別では、『ある』は単身世帯(36.3%)で割合が高く、夫婦のみ世帯(23.0%)で低い。

図 3 - 3 眠れないことの有無 (Q17)

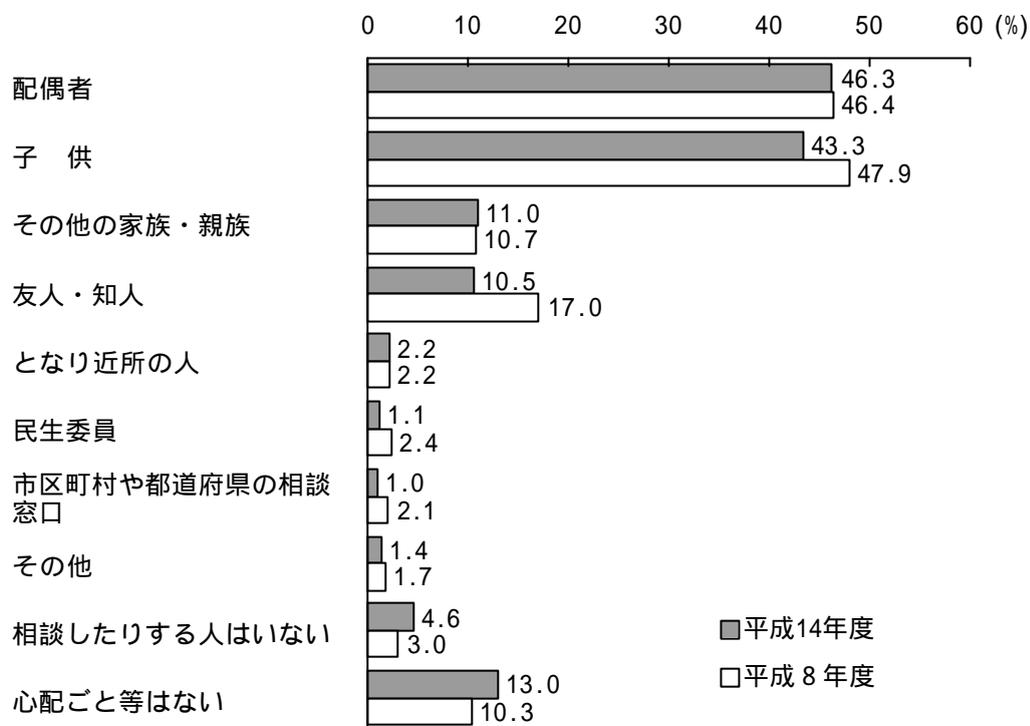


(13) 心配ごとや悩みごとの相談相手 (Q18) (報告書 48 頁)

心配ごとや悩みごとの相談相手は、「配偶者」46.3%、「子供」43.3%。

前回調査と比較すると、前回最も高かった「子供」が 4.6 ポイント減少し 2 番目に高い割合となり、今回は「配偶者」が最も高い。

図 3 - 4 心配ごとや悩みごとの相談相手 (Q18) (複数回答)

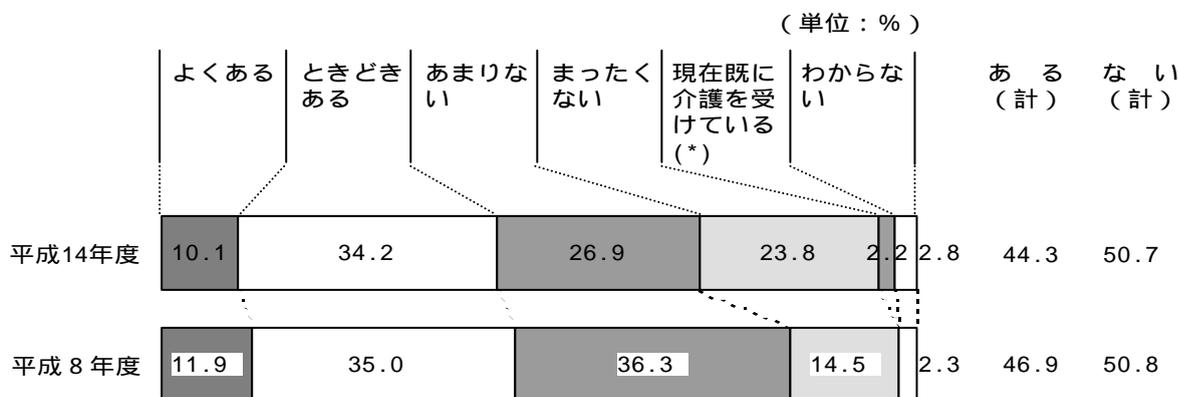


(14) 介護が必要になる不安 (Q19) (報告書 50 頁)

将来身体が虚弱になって、日常生活を送る上で、排泄等の介護が必要な状態になるのではないかと不安になることがあるかでは、「よくある」が 10.1%、「ときどきある」が 34.2%で両方を合わせた『ある』が 44.3%。一方、「あまりない」が 26.9%、「まったくない」が 23.8%で両方を合わせた『ない』が 50.7%。また、「現在既に介護を受けている」は 2.2%。

世帯構成別では、『ある』の割合は単身世帯で 56.3%と最も高い。

図 3 - 5 介護が必要になる不安 (Q19)



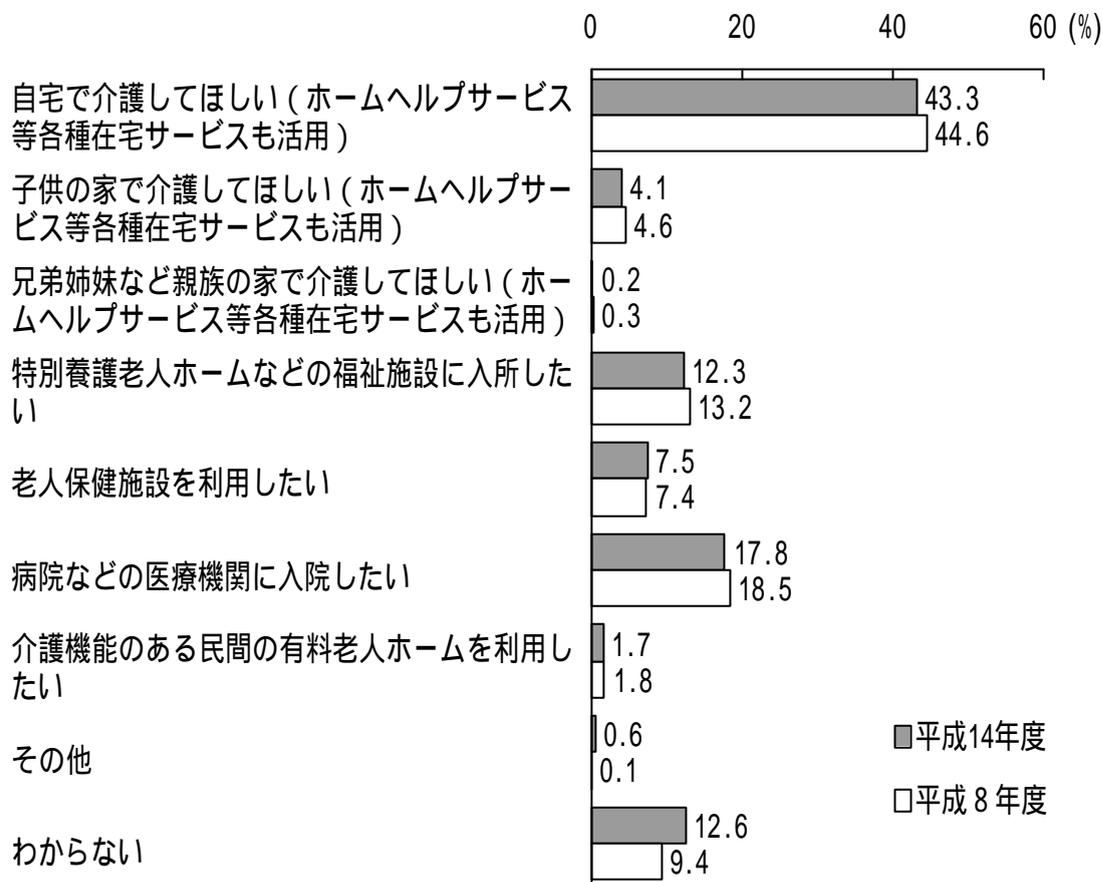
(*)「現在既に介護を受けている」は今回加えた項目である。

(15) 介護を受けたい場所 (Q19SQ1) (報告書 52 頁)

Q19で「よくある」「ときどきある」「あまりない」「まったくない」と答えた人に、仮に、介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいかでは、「自宅で介護してほしい(ホームヘルプサービス等各種在宅サービスも活用)」が43.3%と4割を占め最も高く、「子供の家で介護してほしい(ホームヘルプサービス等各種在宅サービスも活用)」は4.1%。外部施設では「病院などの医療機関に入院したい」が17.8%。以下、「特別養護老人ホームなどの福祉施設に入所したい」12.3%、「老人保健施設を利用したい」7.5%、「介護機能のある民間の有料老人ホームを利用したい」1.7%の順。

配偶者の有無別では、「自宅で介護してほしい(ホームヘルプサービス等各種在宅サービスも活用)」は、配偶者のいる人が48.2%、配偶者がいない人34.1%。配偶者がいない人では、「病院などの医療機関に入院したい」(20.5%)や「特別養護老人ホームなどの福祉施設に入所したい」(15.9%)が配偶者のいる人よりも割合が高い。

図3-6 介護を受けたい場所 (Q19SQ1)



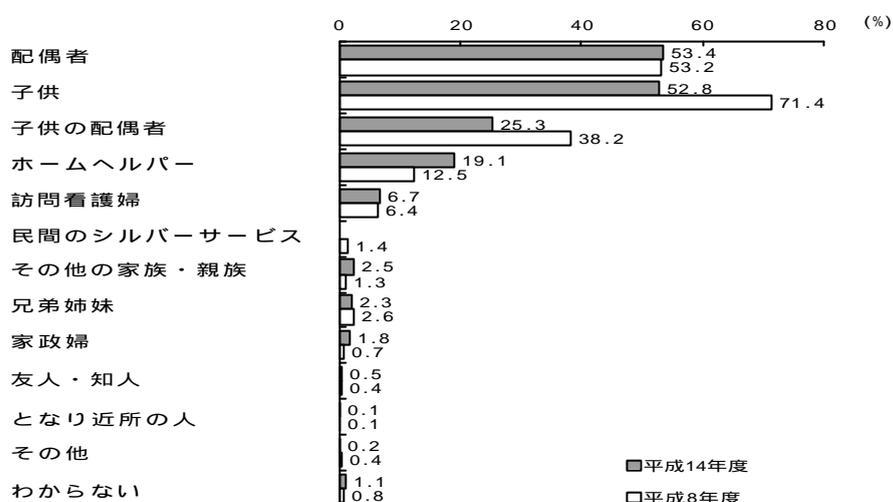
(16) 介護を頼む相手 (Q19SQ2) (報告書 54 頁)

Q19SQ1で「自宅で介護してほしい」「子供の家で介護してほしい」「兄弟姉妹など親族の家で介護してほしい」と答えた人に、そのような場合だれに介護を頼むつもりかでは、「配偶者」が53.4%、「子供」が52.8%と高く、以下、「子供の配偶者」25.3%、「ホームヘルパー」19.1%の順。

前回比較では、前回最も高かった「子供」が18.6ポイント減少し、2番目の割合となり、「配偶者」が僅差で最も高い割合。「子供の配偶者」も12.9ポイント減少。一方で、「ホームヘルパー」は6.6ポイント増加。

都市規模別では、「子供」(56.0%)と「子供の配偶者」(37.3%)は町村で、「ホームヘルパー」(28.7%)や「訪問看護婦」(10.1%)は大都市で割合が高い。

図3-7 介護を頼む相手 (Q19SQ2) (3つまでの複数回答)



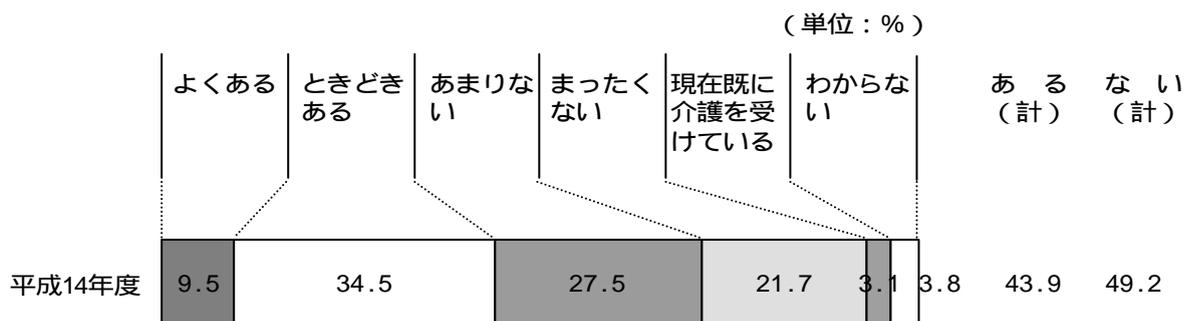
今回の調査では民間のシルバーサービスは調査していない。

(17) 配偶者に介護が必要になる不安 (Q20) (報告書 57 頁)

配偶者(夫又は妻)と同居していると答えた人に、あなたの配偶者が将来身体が虚弱になって、日常生活を送る上で、排泄等の介護が必要な状態になるのではないかと不安になることがあるかでは、「よくある」が9.5%、「ときどきある」が34.5%で両方を合わせた『ある』が43.9%。一方、「あまりない」が27.5%、「まったくない」が21.7%で両方を合わせた『ない』が49.2%。また、「現在既に介護を受けている」は3.1%。

世帯構成別では、『ある』は夫婦のみ世帯(48.6%)で割合が高い。

図3-8 配偶者に介護が必要になる不安 (Q20)



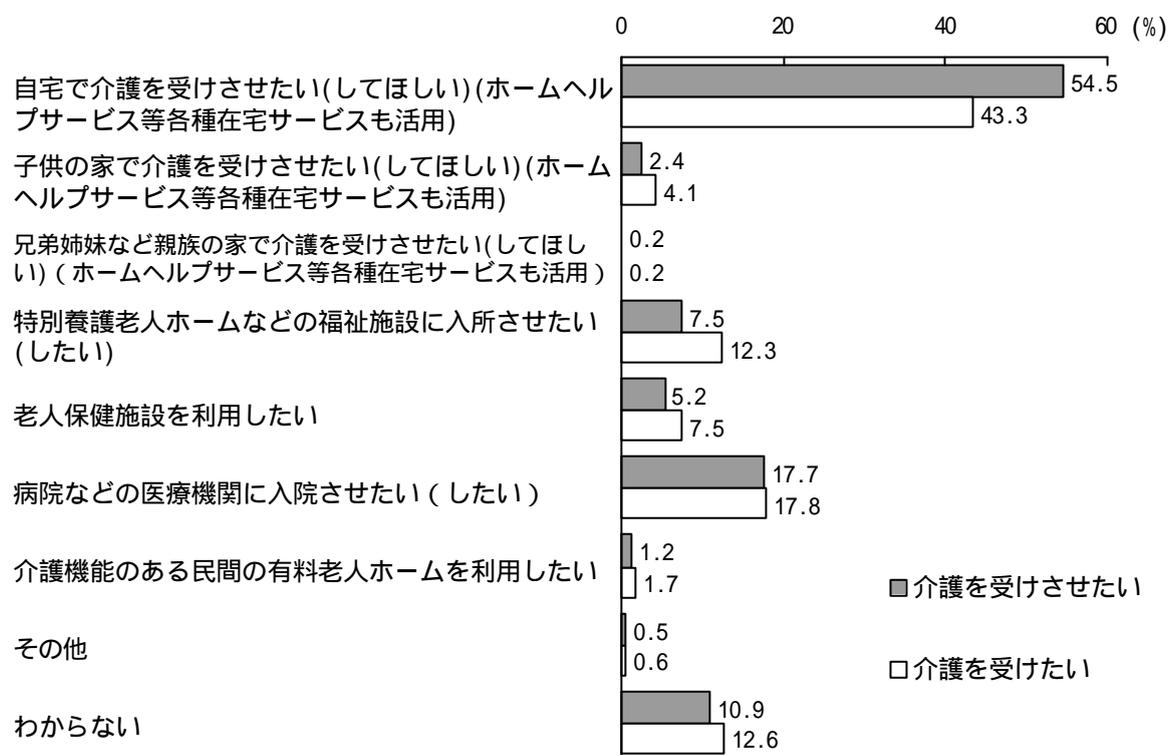
(18) 介護を受けさせたい場所 (Q20SQ)(報告書 59 頁)

Q20で「よくある」「ときどきある」「あまりない」「まったくない」と答えた人に、仮に、配偶者の介護が必要になった場合、どこで介護を受けさせたいかでは、「自宅で介護を受けさせたい(ホームヘルプサービス等各種在宅サービスも活用)」が54.5%、「子供の家で介護を受けさせたい(ホームヘルプサービス等各種在宅サービスも活用)」は2.4%。外部施設では「病院などの医療機関に入院させたい」17.7%、「特別養護老人ホームなどの福祉施設に入所させたい」7.5%、「老人保健施設を利用したい」5.2%、「介護機能のある民間の有料老人ホームを利用したい」1.2%。

Q19SQ1の自分が介護を受けたい場所の結果では、「自宅で介護してほしい(ホームヘルプサービス等各種在宅サービスも活用)」は43.3%となっているが、配偶者については「自宅で介護を受けさせたい(ホームヘルプサービス等各種在宅サービスも活用)」が54.5%と11.2ポイント高い。

世帯構成別では、「自宅で介護を受けさせたい(ホームヘルプサービス等各種在宅サービスも活用)」は、三世帯世帯(58.4%)で最も高い。

図3-9 介護を受けさせたい場所 (Q20SQ)

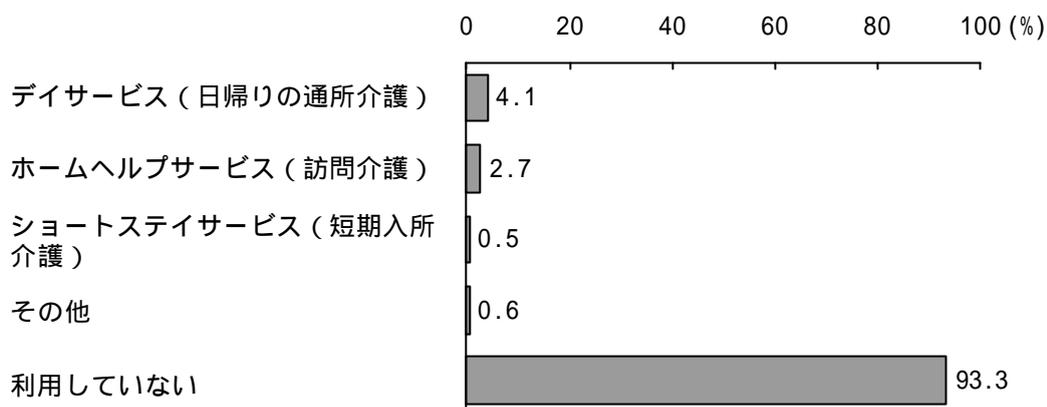


(19) 在宅福祉サービスの利用状況 (Q21) (報告書 61 頁)

ふだんどのような在宅の福祉サービスを主に利用しているかでは、「利用していない」が 93.3%と大半を占める。具体的に挙げられた福祉サービスは、「デイサービス (日帰りの通所介護)」4.1%、「ホームヘルプサービス (訪問介護)」2.7%、「ショートステイサービス (短期入所介護)」0.5%。

世帯構成別では、「ホームヘルプサービス (訪問介護)」は単身世帯 (8.0%) で割合が高い。

図 4 - 1 在宅福祉サービスの利用状況 (Q21) (複数回答)



(参考) 第 5 回 高齢者の生活と意識に関する国際比較調査 (平成 13 年)

主に利用している通所・在宅の福祉サービス

(単位: %)

デイサービス	ホームヘルプサービス	その他	利用していない	無回答
2.6	1.6	0.8	95.0	-

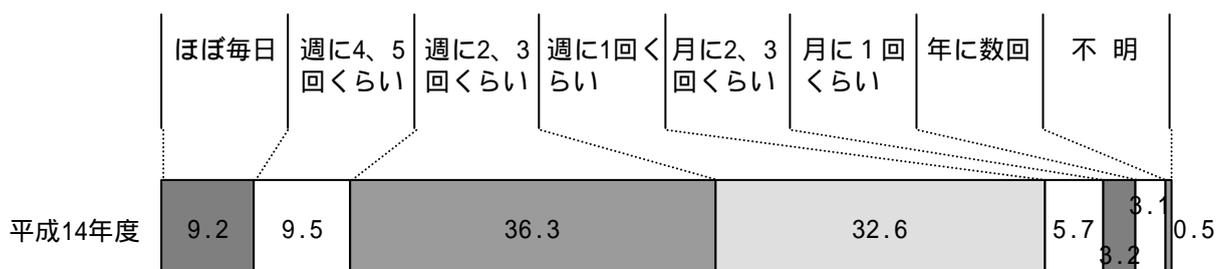
(20) 在宅福祉サービスの利用頻度 (Q21SQ) (報告書 63 頁)

Q21 で何らかの在宅の福祉サービスを利用していると答えた人に、在宅の福祉サービスの利用頻度についてみると、「週に 2、3 回くらい」が 36.3%と最も高い。

性別で見ると、「ほぼ毎日」(男性 15.9%、女性 6.3%)は男性の割合が高い。

図 4 - 2 在宅福祉サービスの利用頻度 (Q21SQ)

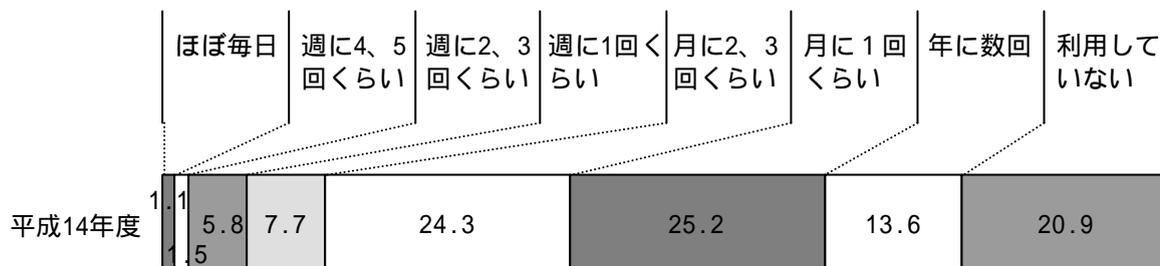
(単位: %)



(21) 医療サービスの利用状況 (Q22) (報告書 64 頁)

病院や診療所など医療施設へ通院したり、往診に来てもらうなど、医療サービスを日頃どのくらい利用しているかでは、「月に1回くらい」が25.2%、「月に2、3回くらい」が24.3%と両方合わせてほぼ5割を占める。また、「利用していない」が20.9%と5人に1人の割合。
性別にみると、「利用していない」(男性24.0%、女性18.6%)は男性の割合が高い。

図5-1 医療サービスの利用状況 (Q22) (単位: %)



(参考) 第5回 高齢者の生活と意識に関する国際比較調査 (平成13年)

医療サービスの利用頻度

(単位: %)

利用頻度	割合 (%)
ほぼ毎日	2.0
週に4、5回くらい	1.0
週に2、3回くらい	6.5
週に1回くらい	7.1
月に2、3回くらい	27.3
月に1回くらい	21.8
年に数回	17.2
利用していない	16.9
無回答	0.1

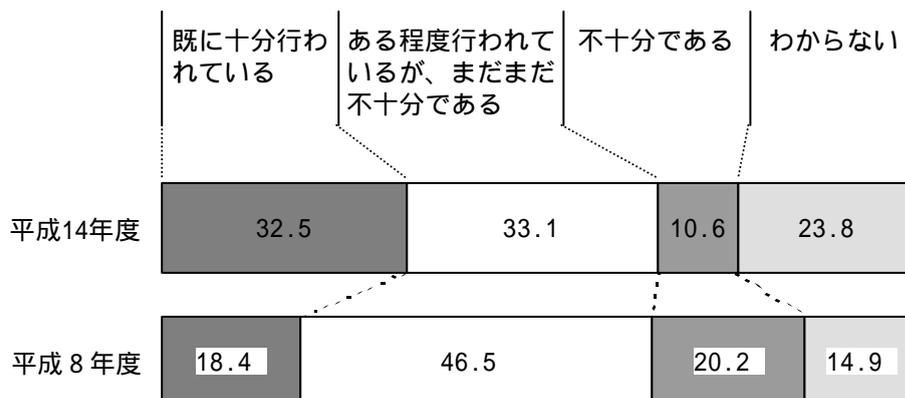
(22) インフォームド・コンセントに対する意識 (Q23) (報告書 65 頁)

我が国の医療機関では、医師が治療の方法、効果、危険性などについて患者に十分な説明を行い、同意を得た上で治療が行われていると思うかでは、「既に十分行われている」が32.5%、「ある程度行われているが、まだまだ不十分である」が33.1%、「不十分である」が10.6%。また、「わからない」は23.8%。

前回比較では、「既に十分行われている」が14.1ポイント増加し、「不十分である」が9.6ポイント減少。

図5-2 インフォームド・コンセントに対する意識 (Q23)

(単位: %)



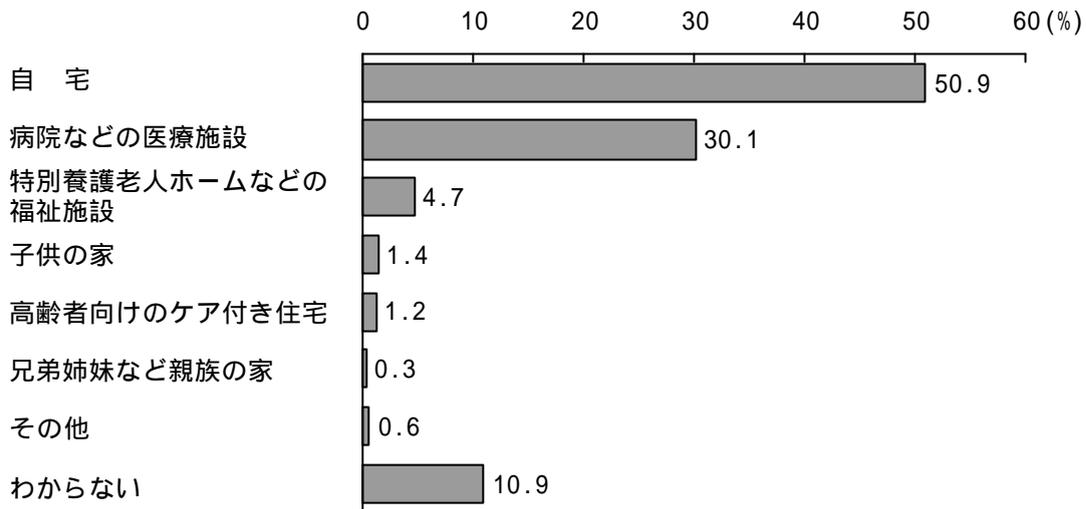
(23) 最期を迎える場所 (Q24) (報告書 67 頁)

万一、治る見込みがない病気になった場合、最期は何処で迎えたいかでは、「自宅」が 50.9% で 5 割を占める。次いで、「病院などの医療施設」が 30.1%、「子供の家」は 1.4%。

配偶者の有無別では、「自宅」は配偶者のいる人 56.0%、いない人が 41.6%。

子供の有無別にみると、「自宅」は子供がいる人 51.9%、いない人 34.3%。「特別養護老人ホームなどの福祉施設」は子供がいない人 12.5%、いる人 4.2%。

図 5 - 3 最期を迎える場所 (Q24)



(参考) 死亡の場所 (65 歳以上)

(単位: %)

病院	診療所	介護老人保健施設	老人ホーム	自宅	その他
79.2	3.3	0.7	2.4	13.3	1.0

平成 13 年人口動態調査

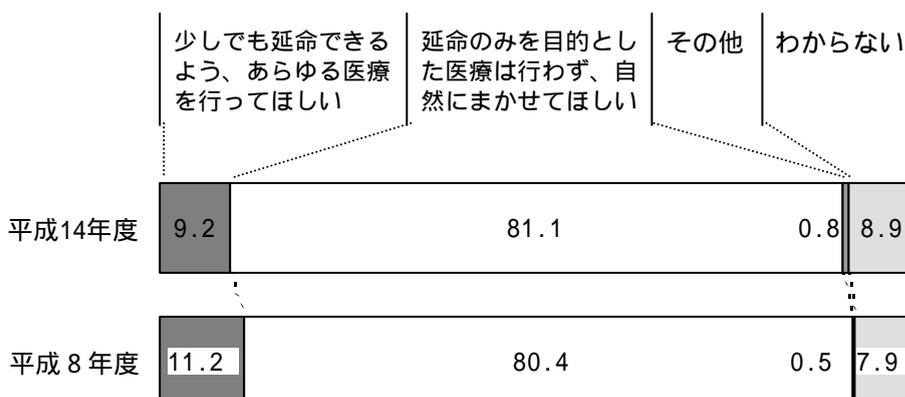
(24) 自分についての延命治療 (Q25) (報告書 69 頁)

万一、病気が治る見込みがなく、死期が近くなった場合、延命のための医療を受けることでは、「延命のみを目的とした医療は行わず、自然にまかせてほしい」が 81.1% と 8 割強を占める。

性別では、「少しでも延命できるよう、あらゆる医療を行ってほしい」(男性 11.6%、女性 7.4%) は、男性の割合が高い。

図 5 - 4 自分についての延命治療 (Q25)

(単位: %)

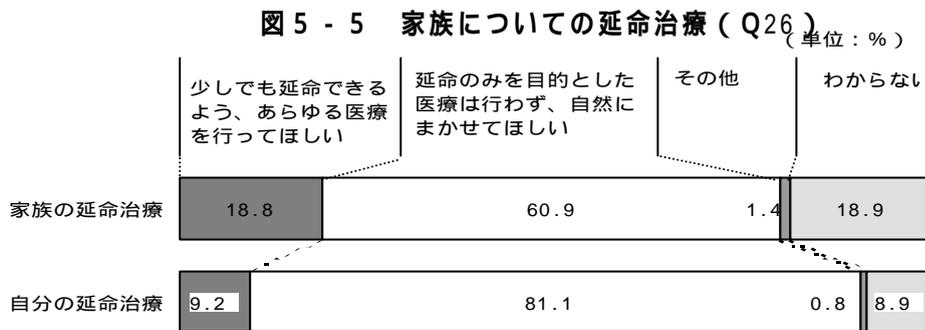


(25) 家族についての延命治療 (Q26) (報告書 71 頁)

万一、家族の病気が治る見込みがなく、死期が近くなった場合、延命のための医療を受けることでは、「延命のみを目的とした医療は行わず、自然にまかせてほしい」が 60.9%。

Q25 の自分の延命治療の結果と比較すると、「少しでも延命できるよう、あらゆる医療を行ってほしい」は、家族の延命治療が自分よりも約 2 倍高い。

配偶者の有無別では、「延命のみを目的とした医療は行わず、自然にまかせてほしい」は、配偶者のいる人が 66.9% といない人 49.9% より 17.0 ポイント高い。



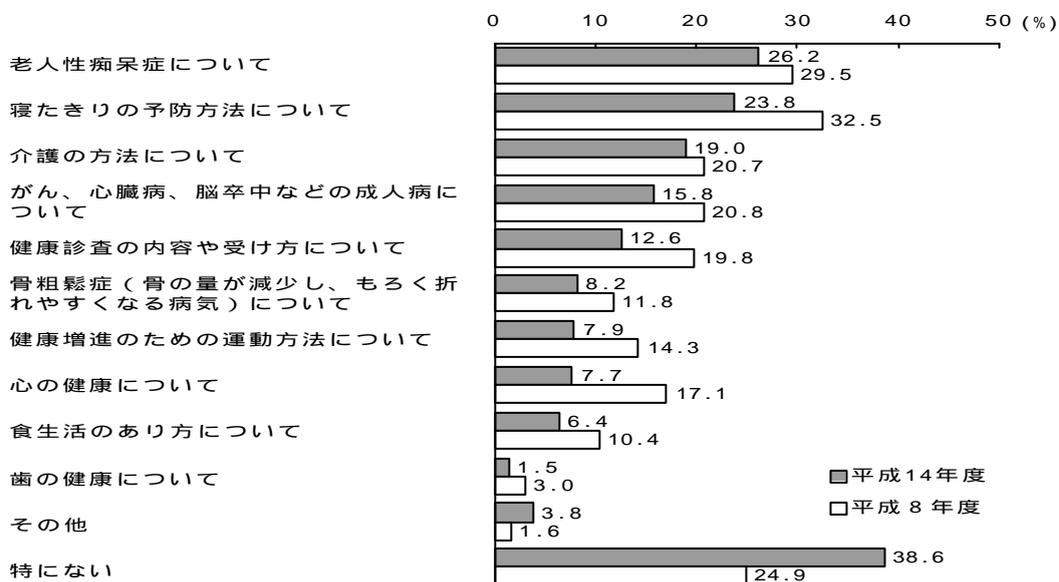
(26) 健康管理に関する行政への期待 (Q27) (報告書 73 頁)

高齢者の健康管理について国や地方自治体に力を入れてほしいことでは、「老人性痴呆症について」が 26.2%。以下、「寝たきりの予防方法について」23.8%、「介護の方法について」19.0%、「がん、心臓病、脳卒中などの成人病について」15.8%、「健康診査の内容や受け方について」12.6%、「骨粗鬆症（骨の量が減少し、もろく折れやすくなる病気）について」8.2%、「健康増進のための運動方法について」7.9%、「心の健康について」7.7%、「食生活のあり方について」6.4%、「歯の健康について」1.5%の順。「特にない」は 38.6%。

前回比較では、割合が減少した項目が多い。一方、「特にない」は 13.7 ポイント増加。

年齢階級別では、「老人性痴呆症について」、「介護の方法について」、「がん、心臓病、脳卒中などの成人病について」、「健康診査の内容や受け方について」は前期高齢者で、「特にない」は後期高齢者（47.5%）の割合が高い。

図 5 - 6 健康管理に関する行政への期待 (Q27) (3 つまでの複数回答)



(27) 生活全般の満足度 (Q28) (報告書 76 頁)

現在の生活全般に満足しているかでは、「満足している」が 41.3%、「ある程度満足している」が 46.8%で、両方を合わせた『満足』は 88.1%とほぼ 9 割を占める。一方、「やや不満である」は 7.8%、「不満である」は 2.9%で、両方を合わせた『不満』は 10.7%。

前回比較では、『満足』が 5.0 ポイント減少し、『不満』が 4.1 ポイント増加。

世帯構成別では、『満足』は単身世帯 (77.9%) で割合が低い。

現在の健康状態別では、『満足』は健康状態が『良い』と答えた人 (93.6%) が『良くない』と答えた人 (77.9%) より 15.7 ポイント高い。

図 5 - 7 生活全般の満足度 (Q28)

